

まゆだま

2012. 5. 8発行
No. 354



連絡先：高田（八王子一小）
東京歴教協 八王子支部

～ 国内の原発50基の再稼働問題で揺れる中、2012年が始まりました。今年度も地道に毎月1回の例会を続け、日常の授業のふりかえりと明日への活力を蓄えていこうと思っております。どうぞ皆様の御理解・御支援をよろしくお願い致します。今年も皆様の参加をお待ちしております。～

4月例会報告：「震災と原発から考える平和学習」



参加者で部屋一杯に埋まった老若男女の熱い思いをとらえた渾身の1枚

2012年度、最初の4月例会は、講師に小寺隆幸さんをお招きして、今の時代に考えるべき問題として「震災と原発から考える平和学習」というテーマで始まりました。新年度が最初の週末の土曜日・午後・そして雨ということもあって、参加者がどのくらいになるのかと心配しました。しかし、会員の皆さんの放射能の問題への関心は高く、途中で資料が足りなくなるほど盛況でした。

この例会のちょうど1週間後の4月21日(土)付けの東京新聞には、「自然エネルギーで節電をしながら反原発を訴える丸木美術館の記事」が掲載されました。その記事を御覧になった方もいらっしゃるでしょう。

その中心人物である小寺さんは、京都橘大学で教育学の授業をされ、チェルノブイリ子ども基金で被曝した子ども達への支援をし、丸木美術館理事長として反核運動のランドマーク的施設の運営にも尽力されている方です。その活動の中心が「教育と反核」ということで、まさに、今回の例会の内容にぴったりな方でした。今回、八王子支部の例会にお招きして、お話を伺ったことを大変嬉しく思います。また、今回参加して下さった方々にも感謝申し上げます。

今回の講演のレジメは「フクシマ以後に生きる」と題し、「核と放射線についての総合学習のために」というねらいで書かれていました。章立ては以下のように6つありました。

1. 福島第一原発事故を本質的にとらえ、子ども達に理解させることを
2. 放射線の影響
3. チェルノブイリで起きていることと福島
4. 私たちの生き方の問題
5. 文科省による放射線副読本の問題点
6. 核について考える総合学習を
(中3で年間20時間ほどかけた授業を目指す)

＜授業を作る上での視点＞

- *子どもは、本当のことを知りたがっている
- *人間がどうしてもないものを作り出してしまったことをきちんと教える
- *原発安全神話押しつけの裏返しで反原発を押しつけるべきではない
- *原爆の事実を学ぶ
- *当事者意識を持つ
-
- など、他にもたくさんの視点を紹介して下さいました。

福島原発の問題は日本のみならず、もはや”フクシマ”として世界から注目されているチェルノブイリ並の問題です。汚染された日本で生きるということをどう考えるか？たくさんのお話の後半で、小寺さんは、ヒロシマ原爆投下後の放射能研究で有名な「肥田先生の言葉」を紹介してくださいました。

内部被曝者の診察の重点は2つ。第一は、主訴が「頑固な倦怠感」の場合は、患者の話をじっくり聞くこと。聞くだけで患者の不安はかなり癒され、医師への信頼が強まる。第2は「患者を励ますこと」患者は極端な無力感に陥っている。何より重要なのは強烈な「生きる意志」である。

原発は本当に”自分の生き方の問題”なのだと感じました。今回の例会で、すぐ答えが出ることではないですが、このテーマも教材化を目指したいですね。

【参加者の感想より】

- 八王子の場でこのような研究会がもたれていることの貴重さ…。これが今後活かされていくことを期待し、お互いに学び、実践して行きたいと思えます。今回の会の企画準備された方々、そして小寺先生、今日はありがとうございました。
- 原発の問題は、毎日の問題なのになかなか話題にあがらないこともあり、「忘れられて」いるのでは…と思うこともしばしばです。ただ、「筈からセシウムが…地表5cmに根を張るものは…」とポツポツとニュースになるとそこでだけ盛り上がるように見えて。一部分の事象だけでなく、もっと全体を見ていけたらと思えます。
- 昨年度も勤務先の高校で、現社の授業で私のイラクでの話(人間の盾)の中で、劣化ウラン弾の話をして、原発事故の話とからめて話をしたところ、後で話した生徒の数人が、「そんな十年後の発ガンより、十日後のメシ」、「こんな、私たちを苦しめる世界なんて、放射能で金持ちもみんな死ねばいい」というような感想があった。これは、イラクの自爆テロを行う青年達と同じ理屈だと思った。彼等の家庭の収入は年収200万以下。今日明日の1000円、500円が出ない。そんな彼等が、まさにここ西八王子駅周辺のコンビニ、ファーストフードのバイトを支えているのだ。(コンビニでコピーをする時、我々は、その店員達の気持ちを想像しているだろうか?) こうした経済格差を解決しなければ、平和も放射能の問題も、原発問題も、本質的に解決できないのだと、定時制高校の現場から考えさせられます。小寺先生は、「最後は子どもに選択させる」とまとめているが、現実的に貧困家庭に育った子どもにそのような「選択」はできるのだろうか。反原発が生活に困っていない「金持ちの道楽」と見えてしまう貧困高校生に先生ならどう答えるのだろうか。…先生には、ぜひいつか、そうした貧困高校生との対話授業を望みます。
- 原発事故がおきてしまったからには、私たちひとり一人が正しい知識を得て、判断し、自分の身を守っていく必要がある、と思えました。原発に頼る前に、無駄な電力を節約するなど、まだやるべきことがあると思えます。そうした“自分達にもできること”を子どもたちと一緒に考えていきます。今日は有り難うございました。
- 「原発事故は天災か人災か」などということも、もはや問えないくらい、この国の原子力政策は異常な状態になっている。ストレステストがクリアできたら再稼働ではない。そもそも原子力がクリーンエネルギーでなかったように思うが、なぜこれほどまでに日本に存在してしまったのか。原子力教育の責任は重いと感じた。
- 高橋哲哉さんが書いているように、「原子カムラの問題と沖縄の基地問題」はきわめて日本的な問題(犠牲のシステム)なのかもしれない。教育の力でその問題を解決するためには、授業をする側(教師)や大人(保護者)が今回の研究会のような場で視点の持ち方や社会認識を学ばなければならないと感じている。実は、この「国は国民を守らないこと」は、あのアジア太平洋戦争末期の沖縄戦の時にも同じだったように日本的な構造なのでしょう。そうしたことをもっと学び、自分の生き様をどうするか。これが我々21世紀に生きる人の努めだと思わざるを得ない。
- 26年経ったチェルノブイリでも、立入禁止区域はまだまだ多数あり、放射能事故の収束がいかに困難であるかを思い知らされた。それなのになぜ原発は減らないのか?それは子どもでもわかる人の命の問題である。小寺先生の今回の話の続きをまた定期的に聞かせていただきたい。事務局の皆さん、がんばって下さい。

●私は、昨年11月、奈良教育大附属小学校の三上先生の研究授業、「福島が広島になった(対象6年)」を参観し、その後の研究協議会にも参加してきました。三上先生は研究協議会で、「私はこの授業で、テレビに節電のコマーシャルが流れたら本当かな?と考える子どもを育てたい」とおっしゃっていました。今日、例会でのお話を聞いて、小寺先生も同じ事を言っていると思えました。今、原発に関する新聞記事や書籍を参考資料として、小学生向けのスライド教材を作っています。今日の先生のお話と資料でしっかりと学んで、今後の教材作りに活かしていきます。本日はたくさんのお話をありがとうございました。

●とても勉強になりました。原発の問題点をわかりやすく説明していただきました。ベラルーシのように、生活の中で放射能の測定器で測ることを行政がきちんとおこない、風評被害に流されることなく、賢い国民になりたいと思えます。またそういう国民を教育で育てたいと思えます。機会がありましたら、小寺先生が啓明学園初等学校でおこなった出前授業も、ビデオなどで見てみたいです。

【参考文献の紹介】

- 岩波ブックレットでは原発・放射能関係のシリーズが続々と発刊中です。
- 802 「原発と日本の未来」 著：吉岡 齋
 - 816 「福島 原発震災のまち」 著：豊田直巳
 - 821 「原発をどうするか、みんなで決める」 共著：宮台真司他
 - 822 「原発への非服従」 共著：鶴見俊輔、大江健三郎他
 - 824 「さようなら原発」 著：鎌田慧編
 - 827 「検証 原発労働」 著：日本弁護士連合会編
 - 831 「原発と自治体」 著：金井利之
 - 832 「内部被曝」 共著：矢ヶ崎克馬、守田敏也



— 5月例会のご案内 —

5月例会「拝島宿を歩く」



低学年の生活科、3年生の地域、4年生の東京、5年生の産業、6年生の歴史に役立つ

講師：栗原 戦三さん (八王子支部会員・公立&私立小学校講師)

日時：2012年5月26日(土) 13:00~16:00頃

集合：啓明学園(小雨決行・豪雨の場合は屋内で)

(拝島駅徒歩20分、立川駅より拝島行きバス25分、啓明学園前下車すぐ)

服装：歩きやすい服、靴で御参加下さい。おやつ歓迎!!

～さらに会の終了後、参加者で啓明学園内の北泉寮(三井家別邸：国指定文化財)の見学も予定しております。この機会にぜひ貴重な文化財を御覧下さい。～

※参加の連絡に詳細につきましては、事務局の高田さん(2012年度からの勤務先=八王子第一小学校：042-642-0851)までお願い致します。